

WEEKLY SIGNAL

2020年5月15日(金) 1524号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想					
5/18(月)		5/19(火)	5/20(水)	5/21(木)	5/22(金)
無担保O/N		△ 0.087% ~ 0.001%			
銀行券		+ 2,000	+ 1,000	ト ン	△ 1,000
財政他		△ 37,000	+ 19,000	△ 16,000	+ 7,000
資金需給		△ 35,000	+ 20,000	△ 16,000	+ 6,000
主な要因	国庫短期証券発行・償還(3M)	国債発行(5年) 申告所得税揚げ	国庫短期証券発行・償還(1Y) 国債償還(変動15年)	国債発行(20年)	
オペ期日	CP等買入 補完供給オペ	△ 400 + 700			
オペスタート	国債買入 CP等買入 ETF	+ 4,600 + 8,000 + 2,500			
(日本)	GDP(1~3月、速報値)			貿易収支(4月) 対外・対内証券投資(5/10-16)	全国CPI(4月) 営業毎旬報告(5/20現在)
(海外)		米 ムニーション米財務長官とパウエルFRB議長 上院技巧委員会で証言 米 ボストン連銀総裁、オンライン討論会に参加 欧 EU財務相理事会	米 FOMC議事要旨(4/28、29開催分) 米 セントルイス連銀総裁オンライン討論に参加 欧 ユーロ圏CPI(4月) 欧 ユーロ圏消費者信頼感指数(5月)	米 パウエルFRB議長、新型コロナウイルスの経済 影響を巡るFRBのイベントで開会の挨拶 米 ニューヨーク連銀総裁、オンラインセミナーの ディスカッションに参加 米 新規失業保険申請件数 (5/16日終了週) 米 中古住宅販売件数(4月) 米 景気先行指標総合指数(4月)	中 中国全人代、開幕 欧 ユーロ圏総合PMI(5月)

【インターバンク市場】

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.030
SPOT 2M	△0.020 ~ 0.040
SPOT 3M	0.000 ~ 0.070
SPOT 6M	0.000 ~ 0.130

＜インターバンク＞

日銀当座預金残高は週初402兆2,300億円から始まった。今週末、新型コロナウイルス感染症対応金融支援特別オペを主因に大きく増加、418兆円2,000億円で越えた。
無担保コールON物加重平均金利は、週初△0.019%から始まるも、積み期終盤にかけて地銀の調達意欲が減退しレートは徐々に低下、13日には△0.026%となった。
15日、新積み期にかかる3日積みでは資金運用にて日銀当座預金調整を行う銀行も出ており、レートは△0.040%に下落し越えた。
ターム物は、1W~1Mの期間で、△0.040%~△0.020%の出合が見られた。
来週の主な予定は1-3月期GDP速報値(18日)、4月貿易収支(21日)や4月全国CPI(22日)の発表、海外ではFOMC議事要旨(20日)の公表がある。

【オープン市場】

CP3M(a-1+)	△0.005 ~ 0.005
TDB 3M	△0.150 ~ △0.100
現先(on/1w)	△0.04 ~ 0.00

＜CP＞

今週の入札発行総額は約7,800億円で、週間償還額(約5,900億円)を上回った。発行市場は、5・10日発行と電気機器や食品業態の大型案件が重なり、週後半に取引が活発化した。発行残高は、先週末の23兆3,263億円から14日時点では約23兆3,140億円と若干減少した模様。発行レートは、日銀のCP等買入オペの買入上限が大幅に引き上げられたことから、レート低下が顕著となった。13日にオファーされたCP等買入オペは予定通り8,000億円で実施され、応札レートには△0.10%の下限が事前に設定された。結果は、按分レート△0.068%・平均落札レート△0.027%と前回比(按分レート+0.052%・平均落札レート+0.081%)で大幅に低下した。
来週の週間償還額は、約4,200億円となっている。発行市場は、5・10日発行が重なることやレート低下も影響し、発行増が見込まれる。発行レートは、引き続き低下余地を模索する展開を予想する。

＜TDB＞

15日の3M907回債(8/17償還)の入札は、最高落札利回り△0.1102%、平均落札利回り△0.1154%となり、入札後△0.12%~△0.127%のレンジで取引された。そのほかセカンダリーでは3M906回債(8/11償還)が△0.1275%~△0.145%のレンジで出合いが見られた。

＜レボ＞

今週の足許GC取引は、週初△0.10%近辺の出合いからスタート。13日受渡し以降は前場から後場にかけて△0.13%近辺と堅調な取引が中心であったが、引けにかけては△0.10%近辺までレートが上昇する展開であった。短期3Mの発行日となる18日受渡しでは、△0.09%近辺の出合いと上昇基調で始まったものの、後場引けにかけて△0.13%近辺まで低下した。
SC取引は、5年143回債が週末に△0.20%台半ばの出合いが見られた。他2年410~412回債、5年141・142回債、10年352~358回債、20年169~172回債、30年61~66回債、40年12回債など各年限のカレント近辺で引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。